

2017年度防災訓練実施内容

【目的】地震、またそれに伴う台風等の災害時に効果的な活動ができるように訓練を実施する。

【日時】平成29年7月9日(日)

【訓練内容】情報収集、伝達訓練、避難誘導訓練
老人対応訓練
専門家(日本赤十字社)による講話、
保存食確認と試飲食等



2018年度防災訓練実施内容

【目的】

台風の接近・集中豪雨発生に伴う避難勧告
避難指示が発令された時、効果的避難活動が
出来るように訓練を実施する。

【日時】平成30年7月8日(日)

【訓練内容】

情報収集、伝達訓練、避難誘導訓練
老人対応訓練
専門家(日本赤十字社)による講話



2019年度防災訓練実施内容

【目的】梅雨前線の活動が活発化し北川の水位が
氾濫危険水位に達し警戒レベル4が発令
された時、効果的避難活動ができるように
訓練を実施する。

【日時】令和元年7月7日(日)

【訓練内容】情報収集、伝達訓練、避難誘導訓練、
小浜市生活安全課による出前講座、
保存食確認と試飲食等



2020年度防災訓練実施内容

【目的】豪雨災害に至る前に区民の避難先を把握する。

【日時】令和2年7月5日(日)

【訓練内容】各戸における避難先の情報収集(お寺、
旧国富小、自宅2F)および伝達訓練。
新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、
点呼集合は実施せず。
訓練に向けて、避難行動要支援者名簿の
見直しを実施。



奨励賞

高塚区自主防災会

2019年 中戸口町防災訓練ストーリー

★活動内容（別紙添付）

1. 実施日：2019年7月14日（日曜日）午前7：00
2. 概要： テーマ 『走れ！中学生！！』（中学生は地域防災のかなめ）

【過去の例】

1. 実施日：2018年7月15日（第三日曜日）
概要： テーマ 『続・中学生は助ける人へ！』（地域防災のかなめ）
1. 実施日：2017年7月16日（第三日曜日）
概要： テーマ 『中学生は助ける人へ！』（地域防災のかなめ）

★活動の特徴

あの東日本大震災で私たちは「釜石の奇跡（出来事）」で防災教育の大切さを学んだ。同時にそれは、防災教育は学校現場だけではなく、地域においても実践する必要性を痛感した。以後、防災士の取得をきっかけに2015年から町内の自主防災組織の防災委員長を務め、中学生を「地域防災の要」とし、避難訓練の主役とした避難訓練ストーリーを作り続け実践してきた。

★活動の成果

避難する際、「無事です！腕章」の使用普及に努め、今では全戸（57戸）で実践している。また避難訓練の主役、中学生に関しての成果は未定である。ただ、真夏の暑い中、母子をリヤカーで救出したり、走ったりした経験はいつか社会人となった時、防災意識の高い「地域の防災リーダー」となることを信じている。

2019.7.14 中戸口町避難訓練「走れ、中学生！」

ミッション：戸口橋は安全に通過できるか？！



① 血の川堤防を走る

中戸口の主役は、
今年も
中学生だった！

去年の訓練

リアカーを使って要配慮者を搬送



橋の安全確認「だいじゅぶだあ」



結果報告

副区長に報告



避難する時には、「無事です！腕章」を道から見えるところに取り付け避難する。これによって、瞬時に安否確認ができる。また、腕章を100均ショップで買い作成コストも安くできた。

ふじ
無事です！

2019.7実施

中学生がリアカーを組み立てる



障害物ちんちんのぞのだ！
みんなで、もちあげるぞ！
ぞ〜れ！！



ケガをし動けない母子に緊急手当てをする



あご少しだ。がんばるぞ！
大人たちにバトンタッチだ！



救出の準備は万端だ！
俺たちに任せておけ！



より頑張ったの！
あとはおばちゃんたちに任せ
てんでの！！いぐぞ！！



奨励賞

中戸口町自主防災組織

地域と防災士で取り組む避難所設営訓練

あわら市防災士の会

～趣旨と概要～

地震等の大型災害が発災した際には、地域住民のみなさまで避難所設営を行わなければならない可能性があります。有事の際に円滑に避難所設営を行うことができるよう、あわら市防災士の会と本荘地区区長会のみなさまで実際に避難所開設を行いました。

～活動内容～



①開会あいさつと概要説明

避難所設営についての説明の様子です。黄色いベストを着用しているのがあわら市防災士の会のメンバー、座って説明を聞いているのが、本荘地区区長会のみなさまです。



②備蓄されている防災資機材の確認

あわら市には22箇所の指定避難所があり、その近くには防災資機材格納庫が設置されています。中に間仕切りや救出道具などの資機材が備蓄されていますが、格納庫の存在やありかについては知らない方もたくさんいらっしゃいました。

③避難所設営

体育館の端に基点を設け、ブルーシートを貼っていきます。規格化されたブルーシートをはることでブルーシートが避難者スペース、それ以外が通路となり線引きしやすくなります。本荘地区区長会のみなさまのご尽力もあり開始からわずか25分で設営が完了しました。



④間仕切りや段ボールベッドの設置

これまで使用されていた高さ1,100mmの間仕切りの確認とともに、新型コロナウイルス感染症対策として新たに導入された高さ1,800mmの間仕切りについても設営し確認しました。また、段ボールベッドの組み立てを行うとともに実際に使用し、大人が寝ても崩れないことを確認しました。



～活動の成果～

避難所を設営することで、参加者が避難所についてイメージしやすくなりました。また、これまでもレイアウト図面は作成していましたが、実際に設営していく中で、レイアウトのとおりにはできなかつたり、よりよい手法が見つかるなど現場での新たな発見もありました。今後は、市内全指定避難所での訓練実施を目標とし、同時に、訓練が終了した避難所については訓練写真を整理して、初めて人でも設営できるような写真入りの避難所マニュアルを作り、新たな成果としていきます。

奨励賞

あわら市防災士の会

わが町の防災活動報告

越前市高森町

地域で取り組んでいる防災活動

県内では各自治会の過去の災害を教訓に、訓練の目的を絞り町民の安全を守る防災活動に力を入れていると考えます。しかし、高森町では大きな災害の経験はありません。高森町は本村、陣屋団地、西武台団地、西部ニュータウンの4ブロックに分かれており、ブロック間の横の繋がりが薄い町内のため新規入居者でも参加できる事業を計画しました。町民には消防署署員や地元の消防団員、気象庁職員、防災士も数名つつ居り指導者として実技型の訓練を実施し理解を深めていただきます。

活動の特徴

自警隊、女性自警隊も指導員の補助として老人、子供を中心に丁寧に説明し町内の親睦の一環となっている。また、2009年度には「初期消火」が中心でしたが近年では自助、共助まで町内で出来る事を目的に救急措置も取り入れる訓練としております。

活動の成果

幸いな事に高森町は地震、水害等の災害が発生しておりませんが検証は出来てないのが事実です。しかし、町民の横の繋がりは確実に広がりました。有事の際には隣のおじいちゃん、おばあちゃんを忘れる事なく誘って行動して頂ける様になりました。また、平日等若者の不在な時は女性自警隊が中心となり町内を守っております。



2009年消火訓練



2010年タンカー漏油訓練



パカッリレー訓練



AED訓練



小動物シブシブ訓練



三島公園定例訓練



今後に向けて

「継続は力なり」この言葉のように高森町民の
全員参加による自主防災組織を強化していきたい

高森町では毎年9月第三日曜日に「スポーツ&ふれあい会と防災を考える日」として町民全員参加型のイベントを実施しております。

奨励賞

高森町自治会



奨励賞

三十八社町防災会

2020.8.22 福井市上文殊地区防災セミナー

第二回 地域防災マップ作成説明会

“水と土砂災害”に備えあなたの命を守る。

1948年 福井地震後の豪雨

2004年 福井豪雨

2020年 令和2年7月豪雨

熊本豪雨 被災した「千寿園」

- 防災研祥会の式次第
1. 会長挨拶
自治防災会長 平井隆之
 2. 司会進行
防災事務局 榎本孝一
 3. 自主防災会の役員紹介
会長、副会長 木村謙・鎌田浩行
 4. 講師及び関係者紹介
松井幹晴氏——消防士会の元理事、現在は学校防災アドバイザー
入江幸治氏——福井県危機対策・防災保護グループ主宰
 5. 講師登壇
それでは、松井様 宜しくお願い致します。
20分ほど、熊本の災害
そのあと本日の作業の手順
ハザードマップ作成に入る
 6. ハザードマップの作成作業に入る
 7. 質疑等
 8. 閉会の挨拶
自治連会長 木村謙



独自のシール作成

H16
平成16年（2004年）
福井豪雨 被害・異常箇所

災害弱者・障害者・妊婦・乳幼児の家庭



奨励賞

上文殊自主防災会



一時避難所、避難経路策定



防災訓練 避難経路実態調査展示



防災訓練 避難経路展示



防災訓練 仕切り版組立訓練



防災訓練 非常持ち出し展示



防災訓練 簡易ベッド組立訓練



防災訓練 無線部隊本部



ドローン部隊がイロト養成講座



外部講師による防災研修



ドローン部隊による空撮

日之出地区 「ウィークデー防災訓練」



日之出地区自主防災組織連絡協議会は平成14年に学校区単位の自主防災組織として結成され、地区において防災訓練や防災研修会、防災フェスタなどの活動を行っております。

平成28年から新たに、日之出地区防災訓練として「ウィークデー防災訓練」を始め、平成29年からは日之出小学校の児童も参加して訓練を継続しています。

日之出地区独自で実施しているウィークデー防災訓練について紹介いたします。

日之出地区自主防災組織連絡協議会

ウィークデー防災訓練内容

・1回目は**日之出区民対象**にウィークデーの午後3時に震度6強の地震が発生したという想定で、区民が居住している自治会が決め一時避難所への避難、一時避難所では自治会長を中心に安否確認、結果を対策本部(公民館に設置)に報告を行うという総合防災訓練という形で実施しました。区民全体参加者は500名程度でした。

・事前に自治会長、自治会自主防災会長対象に事前研修会を開催したこともあり、区民の**意識向上、防災意識の啓蒙**にも成果がある事を実感しました。

・自主防での1回目の結果の確認・反省会の中で、もし日之出小学校の**児童が下校途中で大地震が発生した時、児童が自分で自分の身を守る行動、安全な場所への避難**が出来るようにすべきでないかという提案がありました。

・2018年からは日之出小学校と連携し、ウィークデー防災訓練は**児童が下校している時に大地震が発生したという想定で、全児童が参加**して訓練を継続しています。(昨年は約1,000名が参加、今年は1年生～3年生参加で実施)

・この訓練を**継続**する事で、児童が助けられる側から早く**助ける側になれる**という期待もしています。

ウィークデー防災訓練実施の背景

- ・福井市では毎年6月末の日曜日朝に**総合防災訓練**を実施しています。
- ・日之出地区でも**毎年区民が多数参加**し、訓練のサイレンを機に各自治会が決め一時避難所に避難し、各自治会単位で被害状況、安否確認訓練、指定避難所で自治会長、自治会防災会長対象に避難所開設訓練等を実施しています。
- ・日之出地区自主防災組織連絡協議会(以降自主防)で総合防災訓練の結果について検討をしている中で、**もし大地震がウィークデーに発生したらどうなるのか?**という疑問が生じました。
- ・ウィークデーに地区内に居るのは、主に「じいちゃん」、「ばあちゃん」、「おばちゃん」、「子供」だけになるのではないかと?
- ・そんな時でも**安否確認が正確に実施できるように訓練しておく必要がある!**
- ・日之出地区独自で訓練を実施して備えようということで、**2017年からウィークデーに震度6強の地震発生を想定した避難訓練**を開始しました。



ウィークデー防災訓練の様子



児童が会員持っているアプリカードを班別別に作成
 ウィークデー防災訓練実施に関して父兄に配布する「しつぽ」
 各家庭に配布してある地震発生時の行動「しつぽ」
 下校途中で地震発生を告知、身を守る行動
 下校途中の一時避難所で班長が班員の安否確認を実施
 一時避難所責任者から訓練の意義を説明
 自治会が決め一時避難所に迎えに来た班長に引き渡し

※この訓練は前例が無く手探りで始め、まだ確立していません。小学校、PTA、公民館、地区の各種団体の皆様のご協力を得て、児童の安全を最優先にして本年も実施します。少しずつですがブラッシュアップ出来るように、また区民の防災意識の啓蒙、向上に繋がるように継続していきたいと考えています。



日之出地区自主防災組織連絡協議会

わが町の防災コンテスト (防災活動報告)

- 応募団体名: 北中山地区防災会議
- 応募テーマ: 防災を核にしたまちづくり
- 防災活動報告内容

■地域で取り組んでいる防災活動

1. 取り組みの体制づくり

(1) 北中山地区自主防災計画の策定 (経緯)

平成16年 7月 福井県南越前
平成23年 3月 「北中山まちづくり計画」策定 (産業建設防災部会組織設置)
平成24年12月 部会から地区長会に「自主防災への取組について」提言
平成25年 5月 地区長会: 「北中山地区自主防災計画」を策定 (北中山地区防災会議を設置)

(2) 北中山地区防災会議の設置

[年1回総会を開催、計画実現のため毎年PDCAサイクルを回し、防災力・意識の向上を図る]
平成25年 5月 ・北中山地区自主防災計画 (14項目) を実現するための推進組織として設置
・主要: 地区長会 (地区長会と方向性を共有し、継続した活動への取組みとするため)
・構成: 区長会 (7町内区長)、副区長、各町内会長、北中山ぼうさい隊 (KJB丁)
消防団長、駐在官、まちづくり委員会 (副会長、防災担当) (50余名)

(3) 「地区防災の日」の設置

平成26年 7月 福江市総合防災訓練実施時、参加者アンケート結果を反映
平成26年10月 7月第3日曜日を「地区防災の日」と制定し、地区一斉の自主防災訓練とする
平成27年 7月 地区一斉の自主防災訓練を機軸

2. 具体的な取組 (北中山地区自主防災計画、4本柱の実践)

(1) 防災知識の学習

- ・自主防災セミナー (春: 3月10日前後 秋: 9月1日前後) → 主幹KJB丁 町内単位のワークショップ (体験型講座) 方式
- ・啓発活動 金戸配布チラシ (年2回) 地区体育大会 (昼食時間・防災訓練競技種目) 旗

(2) 自主防災組織の活性化

- ・町内防災会議: 一斉自主防災訓練に伴う打合せ (訓練項目の選択・課題調整)
- ・自主防災カード (グリーンカード) のメンテナンス
- ・防災資機材の町内年次計画による整備

(3) 防災資機材の整備

- ・対象経費の1/4の補助 (7.5万円上限)
- ・町内単位での対応

(4) 防災訓練の実施

- ・地区一斉自主防災訓練
- ・訓練内容: 「地区防災の日」に7町内一斉に実施 (グリーンカード) (防災資機材整備事例)
- ・訓練項目をメニュー化し、毎年実施する共通訓練、選択してする選択訓練の実施
- ・防災会議総務完了公開発表中 他



(北中山地区防災会議)



(秋の自主防災セミナー)

■活動の特徴

1. 北中山地区の概要・特性 (4月末現在)

- ・人口 2,751人
- ・世帯 833世帯
- ・面積 1,042平方km
- ・高齢化率 35.0%
- ・地勢 福江市東部 田園風景豊かな農村地域 地区北部 福井市福山市連なる
- ・基礎 吉くらのボランティア活動基盤
- 社会福祉 (活動)、江原り、ゆい制度、クランダー、また実施、河川清掃



(マスコットキャラクター)

2. 北中山まちづくり計画

(1) 北中山のまちづくりの理念

- ・自分たちで出来ることは自分たちで
- ・どうしても出来ないことは市や県に
- ・税金の有効活用 (何でも税金を使わない)
- ・そして、身についた活動を

(2) 住みよく暮らしやすい北中山づくり

- ・北中山のまちづくりの4本柱
- ・寒いまちづくり
- ・安全安心のまちづくり
- ・健康福祉のまちづくり
- ・歴史文化のまちづくり

(3) 安全安心のまちづくり (防災を核にしたまちづくり)

- ・地区防災会議の活性化
- ・北中山ぼうさい隊による防災力の向上
- ・地区防災の日の定着化 (7月第3日曜日)

3. 福江市総合防災訓練 (以下「総防災」と称する。)

福井県 (平成16年7月18日) での教育者の被災体験を教訓

(1) 10年目訓練 (平成26年7月) 地区の実情に応じた「手作り訓練」

- ・避難所運営・運営訓練 → 町内避難所・指定避難所の設置
- ・避難所居住体験訓練 → 徒歩避難者・エキストラによる体験
- ・参加者アンケート調査 → 参加者委員 (地区防災の日制定の機軸)
- ・町内ぐるみ、地区ぐるみ訓練

(2) 15年目訓練 (令和元年7月)

- ・実践対応型訓練 → 本部 (市) と避難所との連携 (TV会議)
- ・生活体験・実習参加型訓練 → 7ブース設置・関係団体との連携
- ・運営管理スタッフ訓練 → まちづくり委員会、防災会議構成団体
- ・町内単位による合同 (参加型)、小中学生参加 (養成型)、エキストラによる (体験型) 訓練



(総防災 (救急救助))



(総防災 (スペース開拓作り))



(総防災 (ダンボールベッド))



(総防災TV・基盤会議)

■活動の成果

1. 地区一斉防災訓練

- ・市総合防災訓練 (平成26年) を教訓
- 町内でぐるみ、地区ぐるみ訓練基盤構築
- アンケート結果による「地区防災の日」制定

・訓練種目

- メニュー化による共通理解 共通 (毎年): 3種目
- 選択 (2種目): 8種目 (4年1サイクル)

・各町内独自に実施 → 一斉に実施 (7月第3日曜日)

- ・毎年実施 → 継続によるレベルアップ、意識の向上

2. 北中山ぼうさい隊 (KJB丁)

- ・自主活動団体として組織発足 (企業、公共団体資格者も参加)
- ・北中山地区自主防災計画実践の指導
- ・防災・訓練に関する指導・啓発 他

3. 各町内防災会議

- ・防災の日一斉訓練実施の打ち合わせの実施 (毎年1回以上)
- ・町内自主防災訓練との連携
- ・備忘する相違点北越前へのきざし

4. その他 (統制)

- ・有事に臨機でる組織づくり
- ・町内、地区にリーダーの配置
- ・情報の共有 (リアルタイム、情報網の異動)

【関係資料】

東の安全対策

「安全安心なまちづくりに向けて」

(福井県南 (平成16年7月) の爪痕)



わが町の防災への取組み [資料]

年	月	日	防災関連	月	日	まちづくり関連
H	16	7/10	福井県南 (福江市東部3地区水害) の災害			福江市市民代表会議制定
H	22			3月		北中山まちづくり計画策定 (第1次版) ・快進ですみよいまちを目指し、子や孫に引き継がれるよう目標を定め、計画的に実践できる (下る) ような計画
H	24	12/3	「自主防災への取組についての報告」 (地区長会にて)	12/3		右同 報告書 区長会に提出 ①防災知識の学習について ②自主防災組織の活性化について ③防災資機材の整備について ④防災訓練の実施について
H	25	5/1	「北中山地区自主防災計画」策定 (北中山地区防災会議) 組織発足			
H	26	10/1	「防災資機材購入促進補助」制度設置	10/1		右同 まちづくり委員会で設置
H	26	7/13	福江市総合防災訓練 (福井県南10年目)			
H	26	10/27	「地区防災の日 (7月第3日曜日)」制定			
H	27	7月	「地区防災の日」一斉自主防災訓練機軸	10月		福江市まち・ひと・しごと創生総合戦略策定
H	28	2/19	「北中山ぼうさい隊」組織発足	3月		北中山まちづくり計画策定 (第2次版) ・取組みの進捗管理を行い、形骸化しないように更に住み心地のいい魅力ある地域とするために、自分たちで子育てが20年後に快適な生活ができるために
H	29			4/14		「まちづくり宣言」採択 (6月地区体育大会時に宣言)
H	31	4/1	「防災資機材購入促進補助」制度延長 (5年)	4/1		右同 まちづくり委員会 期間延長 (5年間) 決定
R	1	5/9	「自主防災への取組についての報告」 (地区長会にて)	5/9		右同 報告書 区長会に提出 ①専門的防災責任者の確保 ②訓練種目内容精査 (体験・参加・企画)
R	2	7/14	福江市総合防災訓練 (福井県南15年目)			
R	2	7/19	「地区防災の日」コロナ禍一斉自主防災訓練	6/24		福井市北南地区自主防災会議協議会発足 第2期福江市まち・ひと・しごと創生総合戦略策定
R	3		秋の自主防災セミナー「コロナ禍避難所」			
R	3			3月		北中山まちづくり計画 (第3次版)

奨励賞

北中山地区防災会議



はじめての放水訓練!

呉羽町自治会の防災活動



訓練の目的

呉羽町の敷地内には消火栓が設置されていますが、これまで、住民が訓練で実際に放水をおこなったことはありませんでした。

近年は想定外の大規模災害が多発しており、地震などで火災が発生した場合、**消防がすぐに駆けつけられない事態**も十分考えられます。

住民自らが消火栓で放水する必要が出てこないとも限りません。このため、使用法の基本と放水が届く範囲を知ってもらうために放水訓練を計画しました。

訓練の準備

呉羽町は会社の社宅であり、訓練の上で各種確認(緊急連絡先、休日対応、近隣への連絡など)が必要でしたが、会社には全面協力いただきました。

準備する中で分かった点は、消火栓使用には、**会社の緊急連絡先へ電話し、防火ポンプを起動してもらう必要がある**ことでした。

上記の点は市の**消防署が呉羽町で消防活動する上でも必要な手順**であり、現状は住民への周知が十分でないことも判明しました。

訓練の案内

町内の除草日に合わせ、設定しました。

呉羽町各位
2020年9月29日
防火訓練の実施
区長 真田

趣旨の件、以下のように消火栓の放水訓練を行いますので、趣旨をご理解いただき、万期は振り合わせの上、ご参加のほどお願い致します。

- 日時: 10月3日(土) 9:00~9:30 (雨天時は翌日に開催)
- お立ち寄り先: 消防ポンプ前(消防署)にお集まりください。
- ※翌日も雨天の場合は中止。
- ※マスクの着用をお願いします。
- ※除草(あまり考えていませんので早めに仕上げ)のあとに実施。なお除草のない1棟の方も防災訓練には参加できますようお願いいたします。

目的: 近年は想定外の大規模災害が多発しており、火災時に消防がすぐに駆けつけられない事態も十分考えられ、住民自らが消火栓で放水する必要が出てこないとも限りません。使用法の基本と放水が届く範囲を知っていただくというのが趣旨です。使用方法を知らなかったがゆえに被害が拡大することほ残念なことはあります。

- 内容:
- 1 消火栓の使用法の説明
防火ポンプの起動連絡、ホース接続などの注意事項
 - 2 放水の実演
車庫出入口消火栓使用、空き家の3棟に向けて放水
 - 3 放水の体験
特に未経験者や長らく実施していない方
 - 4 ご質問・ご要望など

訓練状況



消火器の使用法も説明。訓練用の消火器を使用しました。

訓練状況



未経験・久しぶりの方の放水体験

初めてでも落ち着いて放水

放水はじめ!

まずは、経験者による実演。ベテランぞろいです。

どこまで届くか確認! 3Fは余裕

補助者も重要です。

かろやかな動きを見守るギャラリー

訓練の成果

1 放水の未経験者に水圧の勢いなどを実感してもらえた、また放水の届く高さや範囲を確認でき、**防災意識の向上につながった。**

2 訓練の準備と実施を通じ、消火栓使用時の手順(通報含め)を細かな点まで確認できた、これを**文書化することで住民に周知できた。**

今後の課題

1 社宅という性格上、人の入れ替わりは通常の住宅よりも多いので、防災関係の文書(右図に抜粋)は新入居者に配布するルールとすることで、**知らないがゆえのリスクを減やさない**ようにしていく。

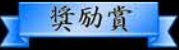
2 近年の社会情勢もあり、社宅の世帯構成も単身・独身者の割合が増え、また工場のため勤務形態も多様であり、今回のような行事も参加率は伸びにくい傾向になっている。このため、とくに**暮らしの安全・防災にかかわる点は、十分周知する工夫が、ますます重要になる**と考える。

呉羽町防災のしおり

2020年10月30日
呉羽町自治会作成

- 1 消火設備がどこにあるか知っておくこと。
 - ・各棟の消火設備図が貼られています。
 - ・社宅集約内には消火栓が2つあります。自分の住んでいる棟からどの消火栓が近いのか確認しましょう。
- 2 火災が発生したらまずすべきこと。
 - ・消火器による初期消火(火事には戻らなければ)
 - ・消火栓による初期消火(火事には戻らなければ)
 - ・消火栓の水圧を確認する(1人で全部は引くことができない)
 - ・会社の緊急連絡先(00000)への連絡(ここも忘れずに!)
 - ・「消防員で放水が完了しました。放水ポンプを起動ください。」と連絡が来たら、1分30秒前から数分まで消防隊が到着します。
- 3 消火器使用のポイント
 - ① 操作は簡単ですが、あわてるとできません。消火器に記載された手順を確認しておいてください。最初段階など記載されています。

屋外消火栓の使用手順



呉羽町自治会



<住んで良かった宮ノ下> <住みたくなる街宮ノ下>



避難場所の確認



福井医療大学 宮ノ下地区

福井医療大学と宮ノ下地区との間に「災害時における相互協力等に関する協定」が締結されました。締結された事により宮ノ下地区には避難所が公民館と医療大学が加わり、よりいっそう災害時の不安を軽減することが出来ました。災害の程度によって避難場所が異なってくるので係の指示に従ってください。

※各家庭で家族の避難場所やいざという時の連絡方法など確認しておきましょう。



<宮ノ下地区自主防災組織連絡協議会>



非常用持ち出し袋を準備しましょう。赤ちゃんやペットの対策も万全に！

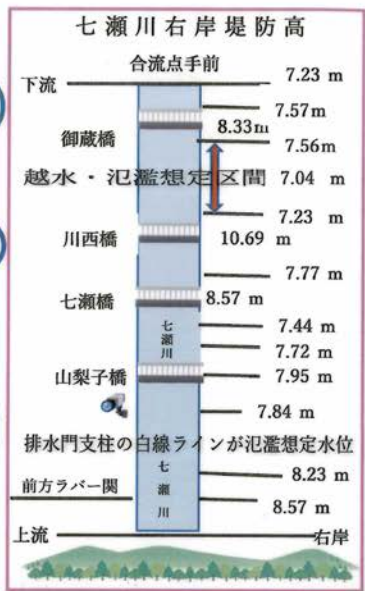
避難所ではコロナ感染拡大防止のためソーシャルディスタンスを保つための協力を御願います。

避難所では受付が町内別になっています。

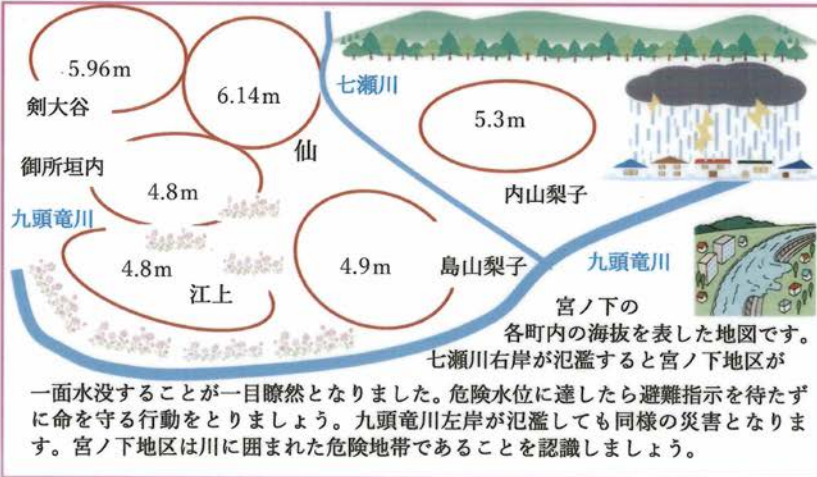
避難所では避難者用カードと問診票の記入をお願いします

お隣さんへの声掛けや、体の不自由な方への支援をお願いします

七瀬川右岸堤防高を見える化しました。危険水位になったら避難準備をしてください

みんなが顔見知りの地域づくりが自主防災の基盤です



- ### ☆活動の成果☆
- ・他地区で取り組んでいる防災活動を防災士をお招きして研修会を開き、地区の各種団体長や自治会長と共に研修を重ねたことにより防災意識が高まり地域間の連携を図る事が出来た。
 - ・七瀬川堤防右岸の堤防高を図表にすることで危ない場所やカメラの位置などわかりやすくなり避難するための目安がわかるようになった。
 - ・各家庭に「災害時の避難先」の調査を行い家族の避難先の確認をした。地区の避難所にどれだけの人が避難してくるかの予想に繋げ避難所開設の準備に備える。
 - ・避難所開設になった時の対応マニュアルの確立と避難者用カード、問診票、健康状態管理表（コロナに関する事）、救急箱、避難所開設の幟端、係のネーム、避難所の収容人数の確認、その他避難所に必要と思われる物の配備。
 - ・各種団体との連携を図り、みんなが顔見知りの地域づくりを推進する。

奨励賞

宮ノ下地区自主防災組織連絡協議会

多田自主防災の組織

組織は、4つ部会に別れ、区役員・消防団・防災士・婦人会・民生児童委員・日赤奉仕団により構成、区長が会長、前年区長は、相談役（※役員任期は、原則1年、自主防災委員会にて改選）

1. 広報情報部
防災活動の企画立案し、災害情報を把握し、災害本部と連絡
2. 巡回・防犯・初期対策部
消火訓練・水防訓練を行い、災害時は巡回活動及び初期消火活動を行う
3. 救護・避難誘導部
避難経路の確認・要支援避難者の避難計画し、災害時は避難誘導を行う
4. 給水・給食部
備蓄品の管理を行い、災害時は炊き出し・備蓄品の供給を行う

2

多田自主防災の取り組み

1. 避難誘導
多田消防団・多田区役員による避難誘導
2. 炊き出し
多田区婦人会による炊き出し（おにぎり作り）
3. 訓練及び出前講座の受講
その年の自主防災役員会にて決定する
4. 自主防災参加者への防災用品の配付
H27年 人工呼吸用携帯マスク
H28年 非常食（乾パン）
H29年 簡易寝袋
H30年 折りたたみウォータージャケット
R元年 非常用ろうそく

3

自主防災訓練活動の歩み

- 平成27年10月4日（日） 一般参加者 103名
若狭消防署 人工呼吸の方法・AEDの使用方法
- 平成28年10月2日（日） 一般参加者 110名
若狭消防署 水消火器による消火訓練・煙体験（避難訓練）
- 平成29年10月1日（日） 一般参加者 101名
生活安全課 出前講座「災害時の対応」
- 平成30年10月14日（日） 一般参加者 113名
生活安全課 出前講座「災害時の対応」
- 令和元年12月8日（日） 一般参加者 75名
生活安全課 出前講座「災害時の対応」

4

令和2年度の取り組み

1. 出前講座「コロナ禍における自主防災の在り方」
10月18日（日）集落センターにて 参加者 24名
※コロナ感染対策として、役員のみにて出前講座受講
2. 連絡網の電話番号を固定電話番号から携帯電話番号へ見直し
非常時の連絡体制強化
3. コロナ感染対策として非接触式体温計を購入
出前講座にて、参加者全員の体温測定
※小浜市自主防災等感染対策支援事業補助金を申請
4. 備蓄品の補充（非常食・乾電池etc）
※小浜市自主防災等活動支援事業補助金を申請

5

奨励賞

多田区自主防災会

小泉町の基礎データ

MAP



東西に長く、河川に挟まれている小泉町

東西に住宅が広がる小泉町では、班によって避難進路・タイミングが異なる。そのため、班ごとに避難計画を作成しなければならない。また、河川に挟まれているにも関わらず、高い建物が存在しない。よって、災害から身を守るには早めの避難が重要なカギとなってくる。

防災設備



小泉町の避難場所である「小泉町集落センター」の横に設置されている小泉町の防災倉庫。ここには、町が所有する防災関連の備品が保管されている。



小型動力ポンプ



発電機
エンジンチェーンソー
LDE 照明
スコップ
土のう袋
毛布
など

今後さらに備品を充実させて避難所としての環境をより良くしていく予定。

小泉町の防災



小泉町の今後の活動

沿革

かつて 毎年、自警団を中心に防災訓練

2016年 自警団を含む自主防災組織が発足 & 防災規定のマニュアル化

2019年 自警団に女性メンバーが増え始める
区長から「女性目線での防災の必要性」を提言され、ここに女性の自主防災組織企画委員長・副委員長が誕生

活動内容

* 毎年の避難訓練

Point

小泉町の避難完了の合図は「白いタオルを玄関にかける」
避難したかどうか一目でわかる仕組みになっています

* 体験型避難訓練の実施(2019年)

より防災に興味を持ってもらうきっかけ作りとして、様々な防災体験や防災グッズ抽選会を盛り込んだ避難訓練を行った。

体験内容

激状化現象「しんどう君」 非常持ち出し袋の作成
煙体験(避難体験) 水消火器体験 消防車放水



非常持ち出し袋の作成体験

水消火器体験

協力：BNS さばえ

今後の目標

防災リーダーの資格取得を目指し企画委員長をサポートしていきます。

自分ができることを精一杯頑張りたいと思います。



やりたい事がたくさんありますが参加者がいないと始まらないのでなるべく多くの人が参加しやすい・参加したいと思える企画を打ち立てていけたらと思います。

防災散歩

改めて町内の危険個所を確認するために徒歩で行う。同時に要介護者の所在確認も行い、災害時の救助活動の参考に。加えて、町内を散歩する中で住民との年齢を越えた交流も行いたい。

- * タイムテーブル作成
- * 非常食づくり
- * サロンでの防災講座
マスク作り・スリッパ作り など
- * 避難所運営シミュレーション
- * 防犯対策
護身術
- * 班ごとの避難経路確認

小泉町の防災組織と活動内容

奨励賞

小泉町自主防災組織企画委員

考えよう町内の防火・防災

★ 活動内容

1. 降雪時における消火栓の廻りの除雪および目印旗の設置
2. 町内の道路の除雪作業
3. 防災訓練時には、①町民女性と子供たちと一体となつてのパケツリレー②小型ポンプ車での放水訓練③土壌作り④消火器による消火訓練⑤婦人会の方中心による放き出し訓練等

★ 活動の特徴（地域の特性・始めた背景）

- ・当初の自警団から平成16年の福井豪雨後福井市役所より各自治会へ「自主防災組織を設けること」が薦められ現在の団長、副団長を始め、1班から5班に編成して活動することになった。
- ・初めは、小型ポンプの使い方訓練のみを行っていましたが後に、操法大会にも出場して訓練を行った。麻生津小学校での防災訓練にも参加した。
- ・消防・防災は元より、正月の門松・神社のしめ縄・左義長・防火水槽廻りの清掃作業・主要道路の清掃作業等地元を美しくする美化運動も行っている。

★ 活動の成果（取り組んだ結果・今後やってみたいこと）

- ・住民の防災意識が高まった。（老若男女の共同作業）
- ・角原町の背後は「文殊山」であり、急斜面の山でもある。福井豪雨には2本の主谷川が氾濫し川が土砂で埋まり、土砂が道路・畑等へも流れ出す等多大な被害が発生した。
- ・現在行っている防災訓練を、より災害時に効果のある訓練にして行きたい。（地震・豪雨時の避難方法等）



奨励賞

角原町自治会（角原町防災会）

避難所開設訓練

～大野市第三地区区長会まちづくり懇談会～

- 防災活動内容
まちづくりの懇談会として、避難所の開設訓練を実施
- 第三地区各区それぞれで、避難についての訓練や意識合わせをしているが、避難の受入側のノウハウを持ち合わせていないことが理由
- さらに、新型コロナウイルス感染症での対策についての知識は持ち合わせていない
- 自助、共助ができるまちづくりを目指し、被災者を支える「備え」を学習する

訓練①

講演：避難所開設と感染防止について
炊出しに係る留意事項

- 避難所の開設手順や方法を学習
- コロナ禍では、これまでの豚汁やおにぎりが作成できないことを確認



避難所開設訓練

～大野市第三地区区長会まちづくり懇談会～

訓練②

班別作業：パーテーション、ベッド組み立て
感染防止と隔離方法体験
炊出し体験

- テントの組み立ては比較的容易
- 段ボールベッドは組み立ては容易だが保管するには広い場所が必要になる
- パーテーションの組み立てには人数が必要



避難所開設訓練

～大野市第三地区区長会まちづくり懇談会～

- 避難者用と隔離者用のスペースをあらかじめ決めておくことが重要
- 隔離場所での対応については担当者は防護服を着ての対応が必要
- 炊出しについてもコロナ対策としてハイゼックスによるご飯を調理



避難所開設訓練

～大野市第三地区区長会まちづくり懇談会～

訓練③

試食体験：炊出したご飯と
温めた非常食で試食

- ご飯は時間によって硬さが変わる
- 最近の非常食はおいしくなっている
- 缶詰だけが非常食ではない



- 活動の成果：
市職員とともに避難所の訓練を行った。避難所の担当職員が少ない場合でも、地区住民が協力することができる。
災害直後で市職員が到着していない時でも、地区住民を受け入れることができる。
菅総理大臣の言葉にもある「自助でまかない、共助で助け合う」地域を作っていく意識を第三地区区長会で共有した。

奨励賞

第三地区区長会 ①

「マイ避難バッグをつくろう！」からはじめる防災

明新自主防災連絡協議会

明新地区はどんなところ

明新地区は、二の宮、新田塚、灯明寺、赤橋筋の4つの自治会からなる地区で、人口16,000人と福井市でも人口の多い地区です。高齢者だけの世帯も増えていて、一人暮らしの高齢者も多いです。アパートや新しい住宅も増加し、小さな子どもさんと高齢者のみの世帯も多くなっていますが、自治会に未加入の世帯も増えてきています。

明新地区の北側には九頭竜川が流れていて、福井市の「洪水ハザードマップ」を見ると、明新地区の多くが2.0m～5.0mの浸水地域になります。「洪水ハザードマップ」は、九頭竜川では190年に1回程度の大雨により堤防が決壊した時の浸水の範囲と深さを示しています。

明新地区の防災活動

「マイ避難バッグをつくろう！」キャンペーン



1

「マイ避難バッグ」って？

明新自主防災連絡協議会では、2018年に「マイ避難バッグをつくろう！」のチラシを作成しました。「マイ避難バッグ」とは、非常時に持ちだすものを入れた「バッグ」です。毎年6月に開催される福井市総合防災訓練や10月の「明新ふれあい文化祭」などで、防災グッズや非常食と共にポスターの展示、チラシの配布などを行い、地区の住民の方に災害時の備えについて啓発活動を行ってきました。



しかし、2019年度の地区の防災避難訓練に参加した地域住民約1500人のうち、避難バッグを持参した方は約50名でした。そこで、2020年に明新小学校の生徒の皆さんに、家庭で避難バッグを準備しているかどうかを聞いたところ、全校児童865名のうち166名と約2割の児童が避難バッグを準備していました。近年日本における災害が多くなっていることで、災害への備えの意識が高まっていることが推測されました。そこで、さらに多くの地域住民の方に災害への備えを行って頂くために、「マイ避難バッグをつくろう！」キャンペーンを開催することになりました。

2

「マイ避難バッグをつくろう！」キャンペーンでは

- 「マイ避難バッグをつくろう！」のチラシをできるだけ多くの方に届けることにしました。
- ① 自治会に加入している約450の世帯に全戸配布する。
 - ② 明新小学校の全児童865名に配布する。
 - ③ 自治会に加入していない世帯がいると思われるアパートなどにポスト投函する。
 - ④ 明新地区にあるお店やコンビニ、病院など協力して頂ける所に置かせてもらう。

- 「マイ避難バッグはできましたか？」のポスターを作成し、「マイ避難バッグ」を作成したらシールを貼ってもらうことにしました。
- ① 明新小学校（冬休み期間終了後まで）。
 - ② 明新公民館（11月30日まで）



今後の課題と活動

「マイ避難バッグをつくろう！」の活動を通して災害への備えについて家族で話し合いをもち、家庭内で、そして一人ひとりができることを準備することで災害時の生活が少しでもよくなるように活動を続けています。しかし自治会に加入していない世帯も増えてきており、地区の全ての住民の方にどのように情報を伝えていくか、高齢の方や障がいのある方、小さなお子さんがいる家庭や外国人のかたなど、災害時に同じ立場になる地域でどのように手助けしていくかをさらに考えていく必要があります。それが今後の課題です。小中学生の皆さん達がその中心的役割を担っていくことも一つのヒントではないかと考えられ、今後の活動に活かしていきたいと思えます。

奨励賞

明新自主防災連絡協議会

吉野・坂上地区自主防災組織連絡協議会

☆協議会の構成メンバー

会長・副会長・事務局・11地区自主防災会長・吉野区区長会長・吉野小学校校長・吉野消防団団長・永平寺町消防員（2名） 計19名で構成されています。

☆防災活動内容

- ・吉野・坂上地区全地区参加の防災訓練（今までに2回実施）
- ・普通救命講習I講習会（更新は2年毎）
何らかの理由で講習会を受講できなかった方の為に、各地区を対象とした講習会を消防署員の協力を得て実施しています。
- ・安否確認訓練（町作成の「無事」の掲揚確認）
“家族全員の安全”を把握することを目的として実施しています。
- ・災害発生時の炊き出し訓練

☆活動の特徴

- ・毎年、各地区における防災訓練内容についてメンバー全員が意見交換できる場を設けて各地区の訓練高揚に繋げています。
- ・2020防災訓練は、コロナ禍の為、安否確認訓練のみ実施する予定でしたが、県のモデル事業（10/26福井新聞掲載）に参加して大規模災害時に避難所の運営業務などを担うにあたり手順確認を実施しました。

☆まとめ

- ・“災害は忘れたころにやってくる”ではなく、毎年日本各地で起こっています。急な災害が起きても、冷静に沈着に判断して行動を起こせるようこれからも訓練していきたいと思います。



2020 コロナ禍の避難者受け入れ・検温準備



2020 避難所のテント張り訓練（準備）



2020 各地区集合後、徒歩で避難所の小学校へ移動



2019 炊き出し訓練（吉野・坂上地区赤十字奉仕団）

◎災害発生時の炊き出し訓練

- ・各地区の女性リーダー、吉野・坂上地区赤十字奉仕団のメンバーによる炊き出し訓練を行っています。
- ・家庭にある食材（米・いも・玉ねぎ・わかめ等）を持ち寄り、塩むすび・みそ汁・ポリ袋料理をして避難されてきた方々に少しでも元気になっていただくこと、1人1人に声をかけながら手渡しで配給しています。



2019 炊き出し訓練による配給

奨励賞

松岡吉野・坂上地区自主防災組織連絡協議会